

小島

真珠の数多こぼれて大理石の床に散らばり
ぼやけた光を発して、私との間にガラスの仕切りをなし
私の目も起きぬけの時のようにぼうとしている

暖かな陽射しの中に床はひんやりとして
こぼれ落ちた哀しみの水滴を美しく受けとめ
チェレスタのきらめく流れを窓の外へ導いて飛ばす

あらゆる生命はもの憂げにうなだれて半ば眠り
水槽の水はゆらゆらと光と戯れて陶醉し
この部屋が空へ高々と浮かび上がることなどは知らない

(1982.5.28)